

# ウェッジウッド

天野 清

イギリスの陶器製造家、1730年7月12日 Staffordshire の Burslem に生る。17世紀を通じウエッジウッド一族は此地方に陶器製造を業としていたが、彼は父トーマスの13人の子の末子として生れ、1739年父に死別した際20ポンドの遺産を与えられたに過ぎず、村の学校を中途退学して父の業を継いだ長兄の徒弟となった。しかも天然痘に襲われ、それが因となり数年後片足を切断するの不運であった。しかしグラッドストーン (W. E. Gladstone, “Wedgwood: an Address delivered at Burslem. Oct, 26th, 1863) の言う如く、これは彼を内面に向わしめ技術の法則や秘訣を求めさせた。1759年同地の the Ivy-House Works の独立陶器製造者となったが、其頃同地の製品は粗末なもので色も黒かったが、彼は余暇に化学を研究して種々試験し、シリカを含む陶土は初め黒いものが竈の火に<sup>かしょう</sup>煨焼すれば白くなる事を発見し、これに拗薬を透明にかけて後に English earthenware (イギリス陶器) として重要な貿易品となった陶器の製造に成功した。女王シャーロットに “Queen’s-ware” と呼ばれるに至った陶器の製作を注文され、Royal Potter に任ぜられた (1762年)。然るに当時<sup>しか</sup>は Pompeii や Herculaneum の発掘あり、Etruria や Magna Graecia の古墳が盛に探索されて古陶器熱の勃興した頃であったから、ウェッジウッドの趣味も此方面に転じ、Recueil d’Antiquités (1752–67) なる刊行物中の図などに倣って美しい古代ギリシヤの彩色された花瓶の模作を企て、プリニウス (Plinius, 61–113年) 以来失われていたエトルリヤの技術を復興せんとした。

外交家ウィリアム・ハミルトン (Sir William Hamilton, 1730–1803年) の所蔵する Herculaneum の出土品や Portland の侯爵夫人のバルベリニの壺などを借り受けて見事な模造に成功し、1769年 Burslem の近くの Etruria と名付けた地に Liverpool の人ベントリイ (Thomas Bentley) と共同して大規模に新しい陶器製造所をつくり、彫刻家フラックスマン (John Flaxman, 1755–1826年) を含む芸術家等に浮彫、胸像、碧玉の美術陶器を作らせた。レイノルズ (J. Reynolds) 其他知名の人にも意匠を依頼した。間もなく彼の竈から出た製品はヨーロッパ各国に輸入され、珍

重されたため、諸外国は高率関税を課して防遏<sup>ぼうあつ</sup>したが無効であった。彼は科学者のパトロンとなり特にエラスムス・ダーウィン (Erasmus Darwin, 1731–1802年) とは親交あり、その息口バートに嫁した彼の娘スザンナ Susanna はチャールズ・ダーウィンの母となり、両家の親交は長く続いた。

ウェッジウッドは彼の経験から高温度を何等かの方法で見付けることに苦心して彼の名で知られる高温計を考案した。曰く“火の作用で作られる生産品の大部分は、僅かの過不足でその美しさや価値をかなり損じるものである。工芸家はその眼で見た熱の度合を繰返すことが不可能なため実験から得た知識を蓄積し得ない。いわんや他人の実験から益するところは極めて少い。” (Phil. Trans. vol. 72, 1782 及び vol. 74, 1784) そこで彼は、脱水まで (600°C) 煨いた 1/2 インチの円柱形の粘土を上から次第に細くなっている円錐形の管に入れ、これが高温で収縮して、孔のどこまで落ちるかで温度を知ろうとした。この収縮は接合剤の化学的性質に依ても異り、同じ条件の下で作る必要があるので極めて不完全ではあるが、簡単な上に当時としては他に方法がなかったので、約1世紀近くも行われたが現在ではゼーゲル錐等に代られている。これパイロメーターの鎬矢<sup>こうし</sup>である。

1783年国立協会に、同じく86年(好古協会) Society of Antiquaries に会員として選ばれ、運河や道路を作り公益事業にも盡し、1795年50万ポンド以上の資産を子孫に遺して Etruria Hall に渡した。彼の陶器はその精緻を極めた技巧や労力、費用を惜まぬ装飾で美事なものであるが陶土の自然な味を出す点では高い芸術眼からは批評の余地があると言われるが、何れにしても碑銘の ‘converted a rude and inconsiderable manufacture into an elegant art and an important branch of national commerce’ は真実で、スマイルス (S. Smiles) のいう ‘工芸界の英雄’ であったことは承認されなければならぬ。

## 交献

Jewitt, Life of Wedgwood (1865). Eliza Meteyard, Life of Wedgwood (1865–6).

William Burton, Josiah Wedgwood and his Pottery (1922)

の外

S. Smiles, Self Help にも略伝あり、(中村正直, 西国立志編, 第3編, 若社, 空地鳥徳)。

パイロメーターに就ては G. T. Halloway, The Evolution of the Thermometer, Science Progress. vol. 4, p.417. (1895-96) 及び H. Lechatelier, Mesure des Température Élevées, p.180 にあり。

---

## PDF 化にあたって

本 PDF は、

『科学史論』（「天野清選集 2，日本科学社，1948 年 11 月）

を元に作成したものである。

PDF 化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

科学の古典文献を電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

に収録してあります。

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内，その他「科学図書館」に関する意見などは、

「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか，書き込みください。